

本稿は、バークレイズ・ピーエルシー(Barclays PLC)が2011年2月15日に発表した2010年度決算報告書の日本語抄訳です。その正確な内容については、原文である英文リリースをご参照ください。本稿と英文リリースとの間で齟齬がある場合には英文リリースが優先します。なお、英文リリースは、以下のリンクよりご覧いただけます。

<http://group.barclays.com/Investor-Relations/Financial-results-and-publications/Results-announcements>

Barclays PLC Preliminary Results Announcement

31st December 2010

バークレイズ・ピーエルシー
2010 年度決算報告書
2011 年 2 月 15 日発表

2010年業績ハイライト

当グループの業績(非監査)	2010年12月31日	2009年12月31日	増減率(%)
	に終了した年度 (百万ポンド)	に終了した年度 (百万ポンド)	
保険金控除後の収益合計	31,440	29,123	8
減損費用及びその他の引当金繰入額	(5,672)	(8,071)	(30)
収益純額	25,768	21,052	22
営業費用	(19,971)	(16,715)	19
税引前利益	6,065	4,585	32
当グループ自身の信用度に関連する(利益)/損失	(391)	1,820	nm
買収及び売却に係る利益	(210)	(214)	(2)
債務買戻し及び償還に係る利益	-	(1,249)	nm
調整後税引前利益	5,464	4,942	11
税引後利益	4,549	3,511	30
親会社の株主に帰属する利益	3,564	2,628	36
基本的1株当たり利益	30.4 ペンス	24.1 ペンス	26
1株当たり配当金	5.5 ペンス	2.5 ペンス	120

パフォーマンス指標

平均株主資本利益率	7.2%	6.7%	nm
平均有形株主資本利益率	8.7%	9.0%	nm
平均リスク調整後資産利益率	1.1%	0.9%	nm
収益に対する費用の比率	64%	57%	nm
収益純額に対する費用の比率	78%	79%	nm
収益に対する費用の比率(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	64%	54%	nm
収益純額に対する費用の比率(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	79%	73%	nm

資本及び貸借対照表

コア Tier1 比率	10.8%	10.0%	nm
リスク調整後資産	3,980 億ポンド	3,830 億ポンド	4
調整後グロス・レバレッジ ¹	20x	20x	nm
グループ余剰流動性	1,540 億ポンド	1,270 億ポンド	21
1株当たり純資産価額	417 ペンス	414 ペンス	1
1株当たり正味有形固形資産価額	346 ペンス	337 ペンス	3
グループ貸付金・預り金比率	124%	130%	nm

事業部門別分析-税引前利益

	(百万ポンド)	(百万ポンド)	増減率(%)
英国リテール・バンキング	989	710	39
パークレイカード	791	727	9
西ヨーロッパ・リテール・バンキング	(139)	280	nm
パークレイズ・アフリカ	188	104	81
アブサ	616	528	17
パークレイズ・キャピタル	4,780	2,464	94
パークレイズ・コーポレート	(631)	157	nm
パークレイズ・ウェルス	163	143	14
インベストメント・マネジメント	67	22	205
本社機能及びその他事業	(759)	(550)	38

地域セグメント別分析-収益²

	(百万ポンド)	%	(百万ポンド)	%	
英国及びアイルランド	12,807	40	12,946	45	nm
欧州地域	4,735	15	4,359	15	nm
米州	7,742	25	6,531	22	nm
アフリカ	4,697	15	4,016	14	nm
アジア	1,459	5	1,271	4	nm

- 2010年12月31日現在には、改定後の定義を適用している。この改定後の定義を2009年12月31日現在に適用した場合、19xとなる。詳細は、原文72ページを参照
- 地域セグメント別分析は、顧客の所在地を基準としている。各地域セグメントについての定義は、原文の「Glossary」ページを参照

2010年業績ハイライト

「当グループが2010年に達成できたこと、なかでも利益成長を実現し、資本基盤と流動性を強化できたことを喜ばしく思います。

私達は、パークレイズ・グループの総合金融モデルが持つ、ビジネス、地域、資金調達手段の多様性により、取引先、顧客を含む幅広いステークホルダーの方々が、様々な恩恵を今後も享受できるものと確信しています。

パークレイズが重視するのは、業務の執行力です。すなわち、強固な資本基盤の維持、リターンの向上、選択的な分野における収益の増加、グローバル市民としての資質の証明という、グループが重んじる4分野に注力することです。」

グループ最高責任者、ボブ・ダイヤモンド

- パークレイズ・グループの税引前利益は前年比32%増の60億6,500万ポンド(2009年:45億8,500万ポンド)
 - 保険金控除後の収益合計は前年比8%増の314億4,000万ポンド、収益純額は前年比22%増の257億6,800万ポンド
 - 減損費用は前年比30%減の56億7,200万ポンドで、貸倒比率は118ベース・ポイント(2009年:156ベース・ポイント)。パークレイズ・キャピタルの減損が大幅に減少したものの、パークレイズ・コーポレートのスペインにおける減損の大幅増により一部相殺
 - 営業費用は19%増の199億7,100万ポンド。パークレイズ・キャピタル及びパークレイズ・ウェルスの事業基盤拡大のための継続的投資、事業再編費用、のれんの減損、過年度の報酬繰延に関連する費用の増加などを反映
 - パークレイズ・グループの2010年の成功報酬総額は前年比7%減の34億ポンド
 - 収益純額の伸び率は費用の伸び率を3%上回る。減損費用の減少が主因
 - 平均株主資本利益率は7.2%(2009年:6.7%)、平均有形株主資本利益率は8.7%(2009年:9.0%)、平均リスク調整後資産利益率は1.1%(2009年:0.9%)
- 当グループの主要財務指標:
 - コア Tier 1 比率は10.8%(2009年:10.0%)、Tier 1 比率は13.5%(2009年:13.0%)
 - グループ余剰流動性は1,540億ポンド(2009年:1,270億ポンド)、調整後グロス・レバレッジは20倍(2009年:20倍)
- 英国における新規融資総額は360億ポンド(2009年:350億ポンド)、スタンダード・ライフ・バンク(Standard Life Bank)買収によりさらに75億ポンド増加
- 納税額は世界全体で61億ポンド。英国における納税額は28億ポンド(従業員に代わり支払った13億ポンドを含む)
- パークレイズ・キャピタルの税引前利益は47億8,000万ポンド(2009年:24億6,400万ポンド)。当グループ自身の信用度に関連する損益を除く税引前利益は2%増の43億8,900万ポンド(2009年:42億8,400万ポンド)
 - 収益合計は17%増の136億ポンド(2009年:116億2,500万ポンド)、収益純額は45%増の130億5,700万ポンド(2009年:90億3,400万ポンド)
 - 第4四半期のトップライン収益は第3四半期と比べて20%増の33億8,000万ポンド
 - 収益純額に対する費用の比率(当グループ自身の信用度に関連するものを除く)は65%(2009年:61%)
 - 信用市場に関連する損失は1億2,400万ポンドと大幅に減少(2009年:44億1,700万ポンド)。減損費用及びその他の信用関連引当金繰入額合計はプロティアム(Protium)向け融資に対する5億3,200万ポンドの減損費用を含め、5億4,300万ポンドに大幅に減少(2009年:25億9,100万ポンド)
- グローバル・リテール・バンキング(GRB)の税引前利益は18億2,900万ポンド(2009年:18億2,100万ポンド)
 - 収益合計は105億700万ポンド(2009年:103億7,400万ポンド)、収益純額は76億400万ポンド(2009年:70億8,600万ポンド)
 - 平均リスク調整後資産利益率は1.7%に上昇(2009年:1.5%)
- アブサの税引前利益は17%増の6億1,600万ポンド(2009年:5億2,800万ポンド)
- パークレイズ・コーポレートは6億3,100万ポンドの税引前損失(2009年:1億5,700万ポンドの利益)
 - 英国及びアイルランド事業の税引前利益は8億5,100万ポンド(2009年:7億3,200万ポンド)
 - 欧州大陸は8億7,000万ポンドの税引前損失(2009年:1億4,200万ポンド)。スペインにおける企業向け減損が8億9,800万ポンド(2009年:2億6,800万ポンド)と大幅に増加したことを反映。新市場は6億1,200万ポンドの税引前損失(2009年:4億3,300万ポンド)
- 英国及びアイルランド事業以外の収益186億3,300万ポンドが収益合計に占める比率は60%(2009年:55%)
- 期末配当金は1株当たり2.5ペンス、2010年合計で同5.5ペンス(2009年:2.5ペンス)

グループ最高責任者によるレビュー

概要

パークレイズ・グループは 2010 年、税引前利益を総額ベース、基調ベース共に大幅に伸ばしました。これは、当グループの主力市場において引き続き見られる厳しい経済情勢、歴史的な低金利、多くの市場セグメントにおける低調な取引高、規制を巡る著しい不透明感といった要因が取り巻く中で、達成したものです。このような環境下において、当グループの従業員が一丸となって利益成長を勝ち得たことを誇らしく思います。

総株主リターン(TSR)で業界の上位 4 分の 1 に入るという当グループの目標を確実に達成し続けるには、まだまだ多くの課題が残されています。2010 年、当グループの TSR 相対パフォーマンスは比較対象としているグローバル同業他社¹の中で上位 4 分の 1 に入りましたが、銀行株を取り巻く市場環境が世界的に厳しかったことを受け、TSR はマイナス 4%となりました。本レビューの後半では、当グループが目標の TSR を達成し続けるために必要不可欠と考えられるコミットメントの内容について言及します。

2010 年の業績

1 年前に、前任者であるジョン・ヴァーリー氏は、当グループがそれまでの金融危機・経済危機を乗り越えるうえで指針としてきた 3 つの優先事項、すなわち、「お客様との密接な関係を維持すること」、「リスクを管理すること」、「戦略を推進すること」を引き続き重視する方針を発表しました。当グループは 2010 年を通じ、これらに注力してまいりました。そこで以下のとおり、これらの優先事項に沿って 2010 年を振り返りたいと思います。

お客様との密接な関係を維持すること: 当グループのお客様の多くが 2010 年を通じ、常に厳しい問題に直面しました。私どもの任務はまさに、ニーズがある限りお客様のお手伝いをするということでした。当グループの 2010 年の収益合計が 8%増となり、過去最高の業績を再び達成したことは、お客様と私どもの良好な関係を十分示唆するものであると認識しております。各事業部門の成果については、各市場の動向あるいは当グループが意図的に行ったりバランシングの影響により、予想以上に個々の差が見られました。なかでも、英国リテール・バンキング、パークレイズ・アフリカ及びアブサ、パークレイカードの米国以外のポートフォリオ、パークレイズ・コーポレートの主力部門である英国事業、そしてパークレイズ・ウェルスの収益パフォーマンスは特に喜ばしいものでした。パークレイズ・キャピタルでは、絶対収益の額そのものは目標水準にまだ届いていませんが、株式部門とインベスメント・バンキング部門の伸びが下期に大きく加速し、第 4 四半期に同業他社の大半をアウトパフォームするに至ったことを喜ばしく思っております。

融資は、経済成長とお客様を支えるパークレイズの根幹業務の 1 つです。英国では、政界やメディアが銀行の貸出動向に引き続き注目しています。当グループの 2010 年の英国の個人及び企業向けの新規融資総額は 360 億ポンドとなりました。また、年初のスタンダード・ライフ・バンク社買収により、英国の融資残高は 75 億ポンド増えました。以上のとおり、私どもは融資に積極的な姿勢で臨んでいます。

リスクを管理すること: 主要リスク関連指標の結果が、当グループの 1 年間の成果を如実に示していると考えています。

- 調整後グロス・レバレッジを 20 倍で維持する一方、2010 年末の自己資本比率(コア Tier1 比率 10.8%)と余剰流動性(1,540 億ポンド)は年初よりさらに上昇いたしました。
- バランスシートの伸び、特にリスク調整後資産ベースの伸びは小幅にとどまりました。
- 減損費用が著しく減少しました。2010 年の貸倒比率は 118 ベーシス・ポイントと、当グループの過去 20 年間の長期平均である約 90 ベーシス・ポイントに比べるとなお高いものの、2009 年の 156 ベーシス・ポイントから大幅に低下しました。

戦略を推進すること: 当グループは、ジョン・ヴァーリー氏の指揮下で 2010 年に推進した戦略的優先課題を、2011 年も引き継ぎ、推進する方針です。私どものユニバーサル・バンキング・モデルがお客様にご提供する価値を確実にすること、引き続き注力してまいります。そのためには、事業地域、事業ライン、顧客の層、資金調達源の多様化を進めることが重要な要素の 1 つである点に変わりはありません。

報酬

当グループが 2010 年の報酬に関して下した決定は外部環境に配慮したものです。この社会的責任と、全てのステークホルダーのご期待に応えるために、優秀な人材を確保し続ける必要とのバランスを取るよう努めました。また、当グループの決定は、大幅改正により成功報酬規定が盛り込まれた金融規制、特に改定された英金融サービス機構(FSA)報酬規約を完全に順守し、かつ、「Project Merlin」の下で当グループが掲げたコミットメントに沿うものです。この結果、繰延された報酬の額がさらに増加し、また、繰延に占める株式の比率が高まりました。大半の上級社員に適用される繰延報酬スキームとして、将来の支払いを当グループのその時点でのコア資本比率に連動させるという画期的な仕組みを導入しました。グループの税引前利益が 32%伸びた中で、成功報酬(過年度の繰延に係る費用は除くが、今後の権利を付与する当年度の成功報酬を含む)は総額で 2009 年に比べて 7%減少しました。

¹ 同業他社: Bank of America, BBVA, BNP Paribas, Credit Suisse, Deutsche Bank, HSBC, JP Morgan, Morgan Stanley, Santander, Société Générale, Unicredit

グループ最高責任者によるレビュー

2011 年に実行すべき優先事項

私は CEO を引き継ぐことを発表した際、バークレイズ・グループがこれまでに追求してきた戦略を大きく変更するつもりはないことを明確にいたしました。私は戦略実行のペースとその強度を引き上げることに、現在も、そして今後も専心してまいります。経済環境と規制環境の不透明度は依然として高いままですが、それに惑わされてはいられません。私たちは以下の 4 分野で市場に対して明確なコミットメントを行い、それを実行していかねばならないのです。

1. **資本** – 私たちは新バーゼル規制導入がもたらすバークレイズ・グループの自己資本比率への影響に伴う不透明感を払拭しなければなりません。2010 年に達成したことをベースに、組織的に大幅に資本を積上げる私たちの業務能力を引き続き発揮していけばその目標に近づけることでしょう。2011 年以内に解決されるべき重要な規制面の諸問題、とりわけ、いわゆる「G-SIFI」(グローバルなレベルで金融システム上重要な金融機関。私たちはバークレイズがそのような金融機関の一つに該当するとみています)に関する金融安定理事会(FSB)の議論の結果や、英国内では独立銀行委員会の勧告などがありますが、バークレイズはこれらの影響に対処できると考えます。しかし、私たちは、資本水準、レバレッジ、バランスシートの拡大と活用、そして不良資産処理に厳しく、注意し続けなければならないことを認識しています。
2. **リターン** – 新たな市場環境により、直近の金融危機前よりも低いリターンを余儀なくされますが、私はこの極めて重要な指標(利益率)で見た勝者と敗者のパフォーマンスの違いは非常に大きなものになると考えています。私たちの優先事項は、勝者の地位を確保することにあります。現在の利益率の水準は中期的には当グループの株主の皆様を受け入れられないであろうことも認識しています。

私たちは事業計画の最終年度中に少なくとも株主資本利益率 13%、有形株主資本利益率 15%を達成していきたくありません。また、クレジット危機による最悪の影響が和らぎ、当グループが業務を行っている主要国がプラス成長までに回復するにつれ、株式資本コストは 2010 年の 12.5%及び 2011 年の目標に掲げた 11.5%を下回り、10%に向かって低下していくと予想しています。

このような水準の利益率を達成できるよう、当グループではポートフォリオの規律ある厳密かつ継続的な見直しを推進しています。すでに中期的に運営経費を大幅に減少させる業務モデルの戦略的見直しを実施しており、当グループでは目標利益率を達成するために必要な事業及び資産ポートフォリオ構成の再構築を引続き行ってまいります。

3. **トップライン収益の向上** – 利益率の改善に関心を集中しながらも、トップライン収益からも目を離すことはできません。そのため、正当な利益率が見られる事業分野においては収益成長を達成するために選択的な投資を行ってまいります。当グループにはそれを示す例がいくつかあります。例えば、バークレイズ・ウェルス(ガンマ計画という戦略的投資プログラムは実施終了まであと 1 年という段階です)、商業用決済サービスを提供するバークレイカードのグローバル・ビジネス・ソリューションズ業務、バークレイズ・キャピタルの株式及びインベストメント・バンキング業務増強後、いかに収益化するか、アジア及びアフリカにおけるビジネス機会への資本投下などです。これら成長のための継続的投資は、バークレイズ・キャピタルやバークレイズ・グローバル・インベスターズの過去 10 年間の発展と同様に、大部分が自律成長によるものになると見えています。
4. **よき企業市民として** – 一般的に、私たち銀行は経済成長と雇用創出の促進にさらに寄与する必要があるのはもちろんですが、この点に関し銀行がすでに果たしている大きな役割について一般の方々によりよく理解していただくことも必要であると認識しています。私はバークレイズの企業文化を誇りに思っています。従業員の多くが業務を展開している地域で支援が必要な人たちのために無私無欲で努力していますが、他にも、私たちがもつ専門知識は社会問題解決に一役買っています。こうした分野での一層の努力を目指すにあたり、グループ外の方々には私たちの活動規模についてより広くご理解していただきたく願っています。今年後半にはこのテーマについてより多くご報告したいと思っております。

結論

世界中で 14 万 7,500 人もの従業員が日々の業務の中でバークレイズの力を最大限に発揮させることに専心しています。過去 3 年間、彼らは確実にそれを実現してまいりました。今後バークレイズにはさらに多くの課題が待ち構えていることと思っておりますが、これら課題ひとつひとつの解決に向けて、従業員一丸となり取り組んでまいり所存です。向こう数年間にわたって当グループの全てのステークホルダー、そしてお客様のご期待に沿うべく尽力する上で、バークレイズの従業員、そしてこの素晴らしい組織の先頭に立つことを心より光榮に思っています。

グループ最高責任者、ボブ・ダイヤモンド

グループの業績

2010年のパークレイズ・グループの税引前利益は、60億6,500万ポンドと前年に比べて32%増加しました(2009年:45億8,500万ポンド)。当グループ自身の信用度に関連する変動、債務買戻しに係る利益、買収及び売却に係る利益を除いた税引前利益は54億6,400万ポンドと11%増加しました(2009年:49億4,200万ポンド)。

収益合計は、314億4,000万ポンドと8%増加しました(2009年:291億2,300万ポンド)。パークレイズ・キャピタルの収益合計は136億ポンドと17%増加しました(2009年:116億2,500万ポンド)。これは信用市場に対するエクスポージャーに関して損益を通じて計上された損失が1億2,400万ポンドへと大幅に減少したこと(2009年:44億1,700万ポンド)、及び当グループ自身の信用度に関連する利益3億9,100万ポンド(2009年:18億2,000万ポンドの損失)を計上したことを反映しています。これらの項目を除いた2010年のパークレイズ・キャピタルのトップライン収益は133億3,300万ポンドと、例外的な高水準を記録した2009年に比べて25%減少しました。全般的な取引活動水準は2010年末にかけて改善し、第4四半期のトップライン収益は33億8,000万ポンドと第3四半期に比べて20%増加しました。グローバル・リテール・バンキング部門では英国リテール・バンキングとパークレイズ・アフリカの収益が好調に増加した一方、パークレイカードは横ばい、西ヨーロッパ・リテール・バンキングは減少となり、収益が105億700万ポンドと1%増加しました。アプサの収益は14%増加しました。パークレイズ・コーポレートの収益は7%減少し、パークレイズ・ウェルスの収益は18%増加しました。

減損費用及びその他信用関連引当金繰入額は56億7,200万ポンドと30%減少しました(2009年:80億7,100万ポンド)。パークレイズ・コーポレート欧州大陸事業部門における、スペインでの貸付金の減損費用は6億3,000万ポンド増加しましたが、その他の事業ではいずれも減損費用が減少しました。2010年12月31日現在のグループの貸付金に対する減損費用の全体比率は、2009年の156ベース・ポイントから118ベース・ポイントへと改善しました。

この結果、減損費用計上後のグループの収益純額は257億6,800万ポンドと22%増加しました(2009年:210億5,200万ポンド)。

収益純額が22%増加したのに対し、営業費用は199億7,100万ポンドと32億5,600万ポンド(19%)増加しました。パークレイズ・キャピタルの営業費用は17億300万ポンド増加しましたが、これは主に営業、オリジネーション、トレーディング、リサーチ業務全般への投資、テクノロジー及びインフラ投資、並びに前年の繰延べに係る費用増を反映しています。グループ全体の事業再編費用は3億3,000万ポンドとなりました(2009年:8,700万ポンド)。これは特にパークレイズ・コーポレート(1億1,900万ポンド)とパークレイズ・キャピタル(9,000万ポンド)の将来的な費用及び事業の効率向上に焦点を当てたことに起因しています。パークレイズ・コーポレート新市場事業部門はのれん2億4,300万ポンドを償却しましたが、これはパークレイズ・バンクのロシア事業に再び焦点を当てることに伴い、簿価を減損処理したことを反映しています。この結果、グループの収益に対する費用の比率は2009年の57%から64%に上昇しましたが、収益純額に対する費用の比率は減損費用が2009年に比べて減少したことを反映し、79%から78%に改善しました。

人件費は119億ポンドと20%増加し(2009年:99億ポンド)、このうち報酬費用が35億ポンドを占めました(2009年:28億ポンド)。人件費合計のうち前年の繰延べに係る2010年の費用は2009年に比べて7億ポンド増加しました。グループの2010年の業績報奨金(前年の繰延べを除くが、翌年以降に権利確定する2010年の報奨金を含む)は34億ポンドと2009年に比べて7%減少しました。パークレイズ・キャピタルでは従業員数が7%増加したにもかかわらず、2010年の業績報奨金が26億ポンドと12%減少しました。

事業部門別業績

グローバル・リテール・バンキング(GRB)の業績は、厳しい環境にもかかわらずモメンタムが継続していることを示しました。GRBの税引前利益は、18億2,900万ポンドとなりました(2009年:18億2,100万ポンド)。英国リテール・バンキングとパークレイズ・アフリカは大幅に利益が増加し、パークレイカードも堅調でしたが、西ヨーロッパ・リテール・バンキングは損失を計上しました。GRB全体の収益は、105億700万ポンドと1%増加しました(2009年:103億7,400万ポンド)。これは事業の拡大、パークレイカードとパークレイズ・アフリカの正味の利ざや(ネット・インタレスト・マージン)の上昇、英国リテール・バンキングの利ざやの安定、西ヨーロッパ・リテール・バンキングの利ざやの低下が影響しています。回収の改善と経済状況の回復に沿ってリスク選好度が引き続き向上し、減損費用が減少した結果、リスク調整後の正味の金利利ざや(ネット・インタレスト・マージン)は上昇しました。営業費用は前年比10%増の60億2,000万ポンドとなりました(2009年:54億9,000万ポンド)、これは主に年金費用の増加、買収の影響、及び規制関連費用の増加に起因します。GRB全体の平均リスク調整後資産に対する利益率は1.7%に(2009年:1.5%)、預貸率は140%に(2009年:144%)改善しました。GRBの各事業の業績は次のとおりです:

- **英国リテール・バンキング**(UKRB)の税引前利益は、前年比39%増の9億8,900万ポンドとなりました(2009年:7億1,000万ポンド)。これにはスタンダード・ライフ・バンクの買収に係る利益1億ポンドが含まれています。収益の増加と減損費用の減少が営業費用の増加を十分に相殺しました。収益は45億1,800万ポンドと6%増加しました(2009年:42億7,600万ポンド)。減損費用は適切なリスク管理と経済状況の改善を反映し、前年比21%減の8億1,900万ポンドとなりました(2009年:10億3,100万ポンド)。この結果、収益純額は36億9,900万ポンドと14%増加しました(2009年:32億4,500万ポンド)。営業費用は前年比11%増の28億900万ポンドとなりました(2009年:25億3,800万ポンド)、これは年金費用の増加、スタンダード・ライフ・バンク買収の影響、及び規制関連費用の増加を反映したもので、これらの項目を除くと営業費用は2009年とほぼ横ばいでした。

グループ財務担当取締役のレビュー

- **パークレイカード**の税引前利益は、減損費用の減少を主因に前年比9%増の7億9,100万ポンドとなりました(2009年:7億2,700万ポンド)。事業の拡大が規制の影響を補うも、収益は40億2,400万ポンドとなりました(2009年:40億4,100万ポンド)。リスク管理の強化と経済状況の改善により、減損費用は前年比6%減の16億8,800万ポンドとなりました(2009年:17億9,800万ポンド)。パークレイカード事業については、全主要市場で不履行状況が改善しました。営業費用は前年比3%増の15億7,000万ポンドとなりました(2009年:15億2,700万ポンド)。
- **西ヨーロッパ・リテール・バンキング**の税引前損益は、1億3,900万ポンドの損失となりました(2009年:2億8,000万ポンドの利益)。この悪化は、経済情勢の厳しさや営業基盤強化に向けた継続的な投資に加え、2009年に1億5,700万ポンドの売却益を計上したことの裏返しに起因しています。手数料収入の増加とクレジットカード事業における伸びが、利ざやの低下と対ポンドでのユーロ安の影響を一部相殺しましたが、収益は前年比12%減の11億6,400万ポンドとなりました(2009年:13億1,800万ポンド)。減損費用は前年比7%減の3億1,400万ポンドとなりました(2009年:3億3,800万ポンド)。営業費用は10億3,300万ポンドと前年と比較し16%増加しましたが(2009年:8億8,700万ポンド)、これは主にポルトガルとイタリアで営業基盤の開拓、特にクレジットカード事業拡大のための投資を継続的に行ったことに起因します。
- **パークレイズ・アフリカ**の税引前利益は前年比81%増の1億8,800万ポンドとなりました(2009年:1億400万ポンド)。これにはスタンダード・チャータード・バンクへのカストディ事業の売却による一回限りの利益7,700万ポンドが含まれますが、事業再編費用4,000万ポンドの計上により、一部相殺されています。なお、2009年にはパークレイズ・バンク・オブ・ボツワナ・リミテッドの株式売却による一回限りの利益2,400万ポンドが計上されていました。利ざやと資金管理収益の改善を反映し、収益は前年比8%増の8億100万ポンドとなりました(2009年:7億3,900万ポンド)。減損費用は経、済情勢の回復と回収状況の改善を受けて前年比32%減の8,200万ポンドとなりました(2009年:1億2,100万ポンド)。営業費用は6億800万ポンドと前年比で13%増加しましたが(2009年:5億3,800万ポンド)、これは事業再編費用4,000万ポンドのほか、インフラ投資、人件費の増加を反映しています。

アブサ・グループ・リミテッドが発表した税引前利益は前年比20%増の118億5,100万ランドとなりました(2009年:98億4,200万ランド)。パークレイズの事業部門別報告では、アブサのクレジットカード事業の業績はパークレイカードに、インベストメント・バンキング業務はパークレイズ・キャピタルに、そして富裕層事業はパークレイズ・ウェルスに計上されています。それ以外のアブサ・グループ・リミテッドの事業の業績はアブサ部門に含まれます。

アブサの税引前利益は、対ポンドでのランドの平均価値の上昇を受け、前年比17%増の6億1,600万ポンドとなりました(2009年:5億2,800万ポンド)。同様に、為替変動の影響により収益は14%、営業費用は25%それぞれ増加し、減損費用は15%減少しました。ランド建ての減損費用は経済状況の改善を反映して26%減少しました。

パークレイズ・キャピタルの税引前利益は47億8,000万ポンドに増加しました(2009年:24億6,400万ポンド)。当グループ自身の信用度に関連する分を除いた税引前利益は43億8,900万ポンドと前年と比較し2%増加しました(2009年:42億8,400万ポンド)。収益合計は前年比17%増の136億ポンドとなりました(2009年:116億2,500万ポンド)。これは信用市場に対するエクスポージャーに関連して損益を通じて計上された損失が1億2,400万ポンドに大幅に減少したこと(2009年:44億1,700万ポンド)、当グループ自身の信用度に関連する利益3億9,100万ポンド(2009年:18億2,000万ポンドの損失)を計上したことを反映しています。これらの項目を除いたトップライン収益は133億3,300万ポンドと、際立って業績が好調だった前年に比べ25%の減少となりました。債券、為替及びコモディティ(FICC)事業のトップライン収益は、金利とコモディティからの収益の寄与の低下を反映し88億1,100万ポンドと35%減少しました。株式及びプライム・サービス事業のトップライン収益については、現物株式とエクイティ・ファイナンスの伸びを欧州株式デリバティブの市場取引の低下の影響が上回り、前年比6%減の20億4,000万ポンドとなりました。インベストメント・バンキング業務のトップライン収益は前年比3%増の22億4,300万ポンドとなりました。

2010年第4四半期のトップライン収益は33億8,000万ポンドと当第3四半期に比べ20%増加しました。これは取引活動の増加に加え、株式及びプライム・サービス事業(74%増)、インベストメント・バンキング事業(45%増)の寄与分を反映しています。FICC事業のトップライン収益は第3四半期と概ね横ばいでした。

減損費用は5億4,300万ポンドと前年と比較し大幅に減少しました(2009年:25億9,100万ポンド)。これにはプロティアムへの貸付の予想実現時期の見直しに伴う減損5億3,200万ポンドが含まれています。この結果、収益純額は前年比45%増の130億5,700万ポンドとなりました。営業費用は26%増加しましたが、これは主に当グループの営業、オリジネーション、トレーディング、リサーチ業務への継続的投資、過年度繰延費用の増加、及び事業再編費用が影響しています。当グループ自身の信用度に関連する影響を除いた収益純額に対する費用の比率は65%(2009年:61%)、収益に対する人件費の比率は43%(2009年:33%)でした。

パークレイズ・コーポレートの税引前損益は6億3,100万ポンドの損失となりました(2009年:1億5,700万ポンドの利益)。収益性の高い英国・アイルランド事業における業績改善が新市場及び欧州大陸事業、特にスペインの損失増により相殺されました。収益合計は資金管理収益の減少と英国以外でのリスク選好度の低下を反映し、前年比7%減の29億7,400万ポンドとなりました(2009年:31億8,100万ポンド)。減損費用は1億3,800万ポンド増の16億9,600万ポンドとなりました。これは不動産市況と建設業界の低迷によりスペインの減損費用が6億3,000万ポンド増の8億9,800万ポンドとなり、英国・アイルランド及び新市場での大幅な改善を上回ったことに起因します。営業費用は19億700万ポンドに増加しましたが、これは主にパークレイズ・バンク・ロシアに関連したのれん2億4,300万ポンドの償却とこれに伴う事業再編費用2,500万ポンド、及び先般発表済みの新市場事業の他地域での事業再編費用9,400万ポンド(大半がインドネシア関連)を反映しています。

グループ財務担当取締役のレビュー

パークレイズ・ウェルスの税引前利益は前年比 14%増の 1 億 6,300 万ポンドとなりました(2009 年:1 億 4,300 万ポンド)。収益が大幅に伸びましたが、事業拡大のための戦略的投資コストで部分的に相殺される形となりました。富裕層事業の力強い伸びと内部資金プライシング・メカニズム改訂に伴う利息収入純額の増加を主因に、収益は 18%増の 15 億 6,000 万ポンドとなりました。減損費用は小幅減の 4,800 万ポンドでした(2009 年:5,100 万ポンド)。営業費用は 19%増の 13 億 4,900 万ポンドとなりました(2009 年:11 億 2,900 万ポンド)。当費用増については、1 億 1,200 万ポンドに上るパークレイズ・ウェルスの戦略的投資計画の開始及び富裕層事業収益拡大に伴う人件費並びにインフラ費用への影響に起因しています。

インベストメント・マネジメントの税引前利益は、主に 19.9%の株式を保有するブラックロック社からの受取配当金を反映し 6,700 万ポンドとなりました(2009 年:2,200 万ポンド)。資産合計は 46 億ポンドに減少しました(2009 年:54 億ポンド)。ブラックロック社の保有株式 3,756 万 7,000 株の公正価値を反映させたことが主因となっています。

本社機能及びその他事業の税引前損失は前年比 2 億 900 万ポンド増の 7 億 5,900 万ポンドとなりました(2009 年:5 億 5,000 万ポンドの損失)。2009 年の損益は債務買戻しに係る純利益 11 億 6,400 万ポンドを反映しましたが、一方で 2010 年の損益は、金融市場の混乱緩和に伴う集中管理による資金調達コストの大幅な減少及び為替換算剰余金からの利益の損益計算書への組換えというポジティブ要因に恵まれたためです。

貸借対照表及び資本管理

株主資本

46 億ポンドの税引後利益及びワラント行使で生じた 15 億ポンドの計上により、2010 年における株主資本(非支配持分を含む)は 6%増の 623 億ポンドとなりました。1 株当たり純資産価値は 417 ペンス(2009 年:414 ペンス)、1 株当たり正味有形資産価値は 346 ペンス(2009 年:337 ペンス)でした。

貸借対照表

2010 年度の資産合計は 1,110 億ポンド増加し 1 兆 4,900 億ポンドとなりました。最も大きく増加したのは現金及び中央銀行預け金、トレーディング・ポートフォリオ資産及びリバース・レポ貸付でした。貸付金は 40 億ポンド増加し、デリバティブ資産及び負債残高は小幅増となりました。2010 年 12 月 31 日現在の調整後有形資産合計の適格 Tier 1 資本合計に対する倍数である調整後グロス・レバレッジは 20 倍(2009 年:20 倍)となり、通常のトレーディング活動の変動を反映して、2010 年中の月末レンジである 20 倍から 24 倍の範囲内で推移しました。

資本管理

2010 年 12 月 31 日現在のバーゼル II 基準によるパークレイズ・グループのコア Tier 1 資本比率は 10.8%(2009 年:10.0%)、Tier 1 資本比率は 13.5%(2009 年:13.0%)となり、予想される規制対象自己資本の変更を控え、当グループの自己資本比率が向上する結果となりました。

リスク調整後資産は 2010 年に 4%増加し、2009 年の 3,830 億ポンドから 3,980 億ポンドに増加しました。資本管理の効率化並びにリスク及び在庫水準の減少の結果、リスク調整後原資産はパークレイズ・キャピタルを中心に前年より 220 億ポンド減少しましたが、これは手法及びモデルの変更に伴いリスク調整後資産が約 280 億ポンド増加したことで相殺されました。為替その他の変動による増加は 90 億ポンドでした。

コア Tier 1 資本比率の 10.0%から 10.8%への上昇幅のうち、留保利益が約 70 ベーシス・ポイントを占めました。コア Tier 1 自己資本のその他の変動では、2010 年 2 月及び 10 月のワラント行使により株主資本が 15 億ポンド増加し、コア Tier 1 資本比率を約 40 ベーシス・ポイント押し上げました。パークレイズ・グループが保有するブラックロック社株式の公正価値の変動は 2010 年にコア Tier 1 資本比率を約 20 ベーシス・ポイント押し下げました。

バーゼル銀行監督委員会は、2010 年 12 月と 2011 年 1 月にバーゼル III の最終ガイドラインを公表しました。新基準には当グループ資産に適用されるリスク・ウエイトや資本資源の定義の変更が含まれており、2013 年 1 月 1 日から適用されます(一部は 2018 年までの移行措置があります)。バーゼル III ガイドラインはまだ欧州地域及び英国の法律には反映されていないため、今後微調整や変更が入る可能性も残っています。新規制が未完成であるという状況の中、同ガイドラインに対して現時点での独自の評価を行った結果、当グループではバーゼル III が実施された後でも引き続き強固な資本基盤を有すると予想しております。

グループ財務担当取締役のレビュー

流動性及び資金調達

2010年12月31日現在のグループ余剰流動性は270億ポンド増の1,540億ポンドで(2009年:1,270億ポンド)、うち1,400億ポンドは英金融サービス機構適格資産残高でした。

バーゼル III ガイドラインは、2種類の新たな流動性指標を提案しています。短期流動性を計測するための、FSAの規制枠組みとほぼ整合性を有する「流動性カバレッジ比率(LCR)」と、長期的な構造的資金調達の安定性を計測するための「安定調達比率(NSFR)」です。パークレイズ・グループの2010年12月31日現在の貸借対照表にこの2つの指標を当てはめると、LCRは80%、NSFRは94%と推定されます。

当グループは引き続き無担保金融市場で預金を引き付けると共に、各種市場において担保付及び無担保のターム物資金を調達しております。2009年12月31日現在、当グループの2010年中に満期を迎える公募債発行残高は150億ポンドでした。2011年中に満期を迎える公募債発行残高は250億ポンドとなっています。当グループが2010年中に約350億ポンドの公募債を発行、2010年中の満期償還と繰上償還の必要額を借り換えると共に、2011、2012両年の満期償還に備えて早めの資金調達を実施しました。2011年に実施する追加的資金調達によりバランスシートの拡大、債務年限の一段の長期化、流動性ポジションの強化を下支えます。

配当

四半期ベースで配当を実施するのが当グループの方針です。2010年度最終配当金については1株当たり2.5ペンスを2011年3月18日付でお支払いいたします。この結果、2010年度累計の配当は1株当たり5.5ペンスとなります。

見通し

2011年は取引高増加により好調なスタートを切りました。2011年1月の当グループの収益、税引前利益は共に2010年の平均月間数値を上回りました。

当グループではコスト増加率を収益の伸び率以下に抑制することを目的に、基礎的コスト・ベースを低下させる計画に着手します。減損についてはグループ全体で良好なトレンドが続いており、2010年の改善ペースこそ下回るものの2011年も減損に関する改善が続くと慎重ながら楽観視しております。

当グループの貸借対照表は2011年には市場リスクに係る新たな規制の実施の影響を受けると予想されます。現時点での予想では、この要因によりリスク調整後資産合計が500億ポンド程度増加し、当グループの資本比率にも相応の影響が及ぶこととなります。当グループでは引き続きバランスシートの拡大を慎重に管理すると共に、英国国内で実行を約束している貸出能力を確保していくつもりです。また、規制当局が求める可能性がある最終的な資本、流動性その他のプルーデンシャル規制の明確化を待って、慎重ながらも漸進的な配当政策を維持していく所存です。

グループ財務担当取締役、クリス・ルーカス

要約連結財務書類

連結損益計算書の概要

継続事業	注 ¹	2010年	2009年
		12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)	12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)
利息収入純額	1	12,523	11,918
手数料収入純額	2	8,871	8,418
トレーディング収益純額	3	8,078	7,001
投資収益純額	4	1,477	56
保険契約に基づく保険料収入額		1,137	1,172
負債の買い戻し及び償却に係る利益		-	1,249
その他の収益		118	140
収益合計		32,204	29,954
保険契約に基づく保険金及び給付金純額		(764)	(831)
保険金控除後の収益合計		31,440	29,123
減損費用及びその他の信用関連引当金繰入額 ²		(5,672)	(8,071)
収益純額		25,768	21,052
人件費	5	(11,916)	(9,948)
一般管理費	5	(6,585)	(5,560)
有形固定資産減価償却費		(790)	(759)
無形固定資産償却費		(437)	(447)
のれんの減損	5	(243)	(1)
営業費用		(19,971)	(16,715)
関連会社及び合併事業の税引後損益に対する持分		58	34
子会社、関連会社及び合併企業の売却益	6	81	188
買収に係る利益	7	129	26
継続事業による税引前利益		6,065	4,585
継続事業に対する税金	8	(1,516)	(1,074)
継続事業による税引後利益		4,549	3,511
売却益を含む非継続事業による税引後利益		-	6,777
税引後利益		4,549	10,288
以下の事業による親会社の株主に帰属する利益:			
継続事業		3,564	2,628
売却益を含む非継続事業		-	6,765
合計		3,564	9,393
非支配持分に帰属する利益	9	985	895
継続事業からの1株当たり利益			
基本的な普通株式1株当たり利益	10	30.4p	24.1p
希薄化後の普通株式1株当たり利益	10	28.5p	22.7p

1 注記は原文 78 から 95 ページ参照

2 詳細な分析は原文 45 ページ参照

要約連結財務書類

連結包括利益計算書の概要

		2010年 12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)	2009年 12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)
税引後利益	注 ¹	4,549	10,288
その他の包括利益			
継続事業			
為替換算差額	18	1,184	(863)
売却可能金融資産	18	(1,236)	1,059
キャッシュフロー・ヘッジ	18	(44)	100
その他		59	218
継続事業からの当期その他の包括利益(税引後)		(37)	514
非継続事業からの当期その他の包括利益(税引後)		-	(58)
当期包括利益合計		4,512	10,744
以下に帰属するもの:			
親会社の株主		2,975	9,556
非支配持分		1,537	1,188
当期包括利益合計		4,512	10,744

1 注記は原文 78 から 95 ページ参照

要約連結財務書類

連結貸借対照表の概要

資産	注 ¹	2010年	2009年
		12月31日 現在 (百万ポンド)	12月31日 現在 (百万ポンド)
現金及び中央銀行預け金		97,630	81,483
他銀行から取立中の項目		1,384	1,593
トレーディング・ポートフォリオ資産		168,867	151,344
公正価値で測定すると指定された金融資産		41,485	42,568
デリバティブ	12	420,319	416,815
銀行に対する貸付金 ²		37,799	41,135
顧客に対する貸付金 ²		427,942	420,224
リバース・レポ取引及びその他同様の担保付貸付		205,772	143,431
売却可能金融投資		65,110	56,483
未収還付税及び繰延税金資産	8	2,713	2,652
前払金、未収収益及びその他資産		5,269	6,358
関連会社及び合併会社への出資		518	422
のれん及び無形資産		8,697	8,795
有形固定資産		6,140	5,626
資産合計		1,489,645	1,378,929
負債			
銀行預り金		77,975	76,446
他銀行への未決済項目		1,321	1,466
顧客預り金		345,788	322,429
レポ取引及びその他同様の担保付借入		225,534	198,781
トレーディング・ポートフォリオ負債		72,693	51,252
公正価値で測定すると指定された金融負債		97,729	87,881
デリバティブ	12	405,516	403,416
発行債券		156,623	135,902
未払費用、繰延収益、及びその他負債		13,233	14,241
未払税金及び繰延税金負債	8	1,160	1,462
劣後負債		28,499	25,816
引当金	15	947	590
退職給付債務	16	365	769
負債合計		1,427,383	1,320,451
株主資本			
非支配持分を除く株主持分		50,858	47,277
非支配持分	9	11,404	11,201
株主資本合計		62,262	58,478
負債及び株主資本合計		1,489,645	1,378,929

1 注記は原文 78 から 95 ページ参照

2 詳細な分析は原文 42 ページ参照

要約連結財務書類

連結株主資本変動表の概要

2010年12月31日に終了した年度	発行済株主資本及び株式払込剰余金 ¹ (百万ポンド)	その他の剰余金 ² (百万ポンド)	利益剰余金 (百万ポンド)	合計 (百万ポンド)	非支配持分 (百万ポンド)	株主資本合計 (百万ポンド)
2010年1月1日現在の残高	10,804	2,628	33,845	47,277	11,201	58,478
税引後利益	-	-	3,564	3,564	985	4,549
その他の包括利益(税引後)						
為替換算変動額	-	742	-	742	442	1,184
売却可能投資	-	(1,245)	-	(1,245)	9	(1,236)
キャッシュフロー・ヘッジ	-	(100)	-	(100)	56	(44)
その他	-	-	14	14	45	59
当期包括利益合計	-	(603)	3,578	2,975	1,537	4,512
新規普通株式発行	1,500	-	-	1,500	-	1,500
従業員株式制度に基づく株式発行	35	-	830	865	-	865
自己株式の購入純額	-	(989)	-	(989)	-	(989)
自己株式の権利確定	-	718	(718)	-	-	-
配当金支払額	-	-	(531)	(531)	(803)	(1,334)
資本留保性証券の償還により発生した非支配持分の純減少	-	-	-	-	(487)	(487)
その他の剰余金の変動	-	-	(239)	(239)	(44)	(283)
2010年12月31日現在の残高	12,339	1,754	36,765	50,858	11,404	62,262
2009年12月31日に終了した年度						
2009年1月1日現在の残高	6,138	6,272	24,208	36,618	10,793	47,411
税引後利益	-	-	9,393	9,393	895	10,288
継続事業からのその他の包括利益(税引後)						
為替換算変動額	-	(1,140)	-	(1,140)	277	(863)
売却可能投資	-	1,071	-	1,071	(12)	1,059
キャッシュフロー・ヘッジ	-	119	-	119	(19)	100
その他	-	-	171	171	47	218
非継続事業からのその他の包括利益(税引後)	-	(75)	17	(58)	-	(58)
当期包括利益合計	-	(25)	9,581	9,556	1,188	10,744
新規普通株式発行	749	-	-	749	-	749
従業員株式制度に基づく株式発行	35	-	298	333	-	333
自己株式の購入純額	-	(47)	-	(47)	-	(47)
自己株式の権利確定	-	80	(80)	-	-	-
配当金支払額	-	-	(113)	(113)	(767)	(880)
資本留保性証券の償還で発生した非支配持分の純減	-	-	-	-	(82)	(82)
強制転換社債発行	3,882	(3,652)	(230)	-	-	-
その他の剰余金の変動	-	-	181	181	69	250
2009年12月31日現在の残高	10,804	2,628	33,845	47,277	11,201	58,478

1 株主資本の詳細は原文 90 ページ参照

2 その他の剰余金に係る包括利益の詳細は原文 91 ページ参照

要約連結財務書類

連結キャッシュフロー計算書の概要

継続事業	2010 年	2009 年
	12 月 31 日 に終了した年度 (百万ポンド)	12 月 31 日 に終了した年度 (百万ポンド)
税引前利益	6,065	4,585
非現金項目の調整	971	13,637
営業資産及び負債の変動	13,108	24,799
法人税支払額	(1,458)	(1,177)
営業活動からのキャッシュ純額	18,686	41,844
投資活動からのキャッシュ純額	(5,627)	11,888
財務活動からのキャッシュ純額	159	(661)
非継続事業からのキャッシュ純額	-	(376)
現金及び現金同等物に係る為替レートの影響	3,842	(2,864)
現金及び現金同等物の純増加	17,060	49,831
現金及び現金同等物の期首残高	114,340	64,509
現金及び現金同等物の期末残高	131,400	114,340

当グループの業績の要約

以下は 2009 年 1 月 1 日以降の四半期毎のグループとパークレイズ・キャピタルの業績の概要です。

グループの業績	2010 年度	2010 年度	2010 年度	2010 年度	2009 年度	2009 年度	2009 年度	2009 年度
	第 4 四 半期	第 3 四 半期	第 2 四 半期	第 1 四 半期	第 4 四 半期	第 3 四 半期	第 2 四 半期	第 1 四 半期
	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)	(百万ポンド)
トップライン収益	7,965	7,413	7,678	8,117	7,453	8,189	10,419	9,299
信用市場に関連する利益／(損失)	116	(175)	(115)	50	(166)	(744)	(1,648)	(1,859)
保険金控除後の収益合計 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	8,081	7,238	7,563	8,167	7,287	7,445	8,771	7,440
減損費用及びその他の信用関連引当金繰入額	(1,374)	(1,218)	(1,572)	(1,508)	(1,857)	(1,658)	(2,247)	(2,309)
収益純額 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	6,707	6,020	5,991	6,659	5,430	5,787	6,524	5,131
営業費用	(5,495)	(4,756)	(4,868)	(4,852)	(4,482)	(4,182)	(3,888)	(4,163)
関連会社及び合併会社の税引後損益に対する持分	16	9	18	15	16	5	24	(11)
買収及び売却に係る利益	76	1	33	100	36	157	18	3
税引前利益 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	1,304	1,274	1,174	1,922	1,000	1,767	2,678	960
当グループ自身の信用度に関連する利益／(損失)	487	(947)	953	(102)	(522)	(405)	(1,172)	279
税引前利益	1,791	327	2,127	1,820	478	1,362	1,506	1,239
基本的 1 株当たり利益	9.1p	0.4p	11.6p	9.3p	1.1p	6.6p	9.5p	6.9p
収益に対する費用の比率 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	68%	66%	64%	59%	62%	56%	44%	56%
収益純額に対する費用の比率 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	82%	79%	81%	73%	83%	72%	60%	81%
収益に対する費用の比率	64%	76%	57%	60%	66%	59%	51%	54%
収益純額に対する費用の比率	76%	94%	70%	74%	91%	78%	73%	77%
パークレイズ・キャピタルの業績								
債券、為替、及びコモディティ	1,915	1,948	2,253	2,695	2,711	2,714	3,883	4,344
株式及びプライム・サービス	625	359	563	493	334	545	748	538
インベストメント・バンキング	725	501	461	556	643	459	751	335
プリンシパル・インベストメント	115	19	4	101	(46)	13	(107)	(3)
トップライン収益	3,380	2,827	3,281	3,845	3,642	3,731	5,275	5,214
信用市場に関連する利益／(損失)	116	(175)	(115)	50	(166)	(744)	(1,648)	(1,859)
収益合計 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	3,496	2,652	3,166	3,895	3,476	2,987	3,627	3,355
減損費用－信用市場に関連する評価損	(299)	(11)	(120)	(191)	(245)	(254)	(416)	(754)
減損費用－その他	77	(1)	79	(77)	(126)	(92)	(390)	(314)
減損費用及びその他の信用関連引当金繰入額	(222)	(12)	(41)	(268)	(371)	(346)	(806)	(1,068)
収益純額 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	3,274	2,640	3,125	3,627	3,105	2,641	2,821	2,287
営業費用	(2,201)	(1,881)	(2,154)	(2,059)	(1,552)	(1,864)	(1,529)	(1,647)
関連会社及び合併会社の税引後損益に対する持分	2	6	7	3	17	(3)	20	(12)
税引前利益 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	1,075	765	978	1,571	1,570	774	1,312	628
当グループ自身の信用度に関連する利益／(損失)	487	(947)	953	(102)	(522)	(405)	(1,172)	279
税引前利益	1,562	(182)	1,931	1,469	1,048	369	140	907
収益に対する費用の比率 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	63%	71%	68%	53%	45%	62%	42%	49%
収益純額に対する費用の比率 (当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	67%	71%	69%	57%	50%	71%	54%	72%
収益に対する費用の比率	55%	110%	52%	54%	53%	72%	62%	45%
収益純額に対する費用の比率	59%	111%	53%	58%	60%	83%	93%	64%

事業部門別の事業業績

パークレイズ・キャピタル

損益計算書関連の情報	2010年	2009年
	12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)	12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)
利息収入純額	1,121	1,598
手数料収入純額	3,347	3,001
トレーディング収益純額	8,377	7,185
投資収益／(損失)純額	752	(164)
その他の収益	3	5
収益合計	13,600	11,625
減損費用及びその他の信用関連引当金繰入額	(543)	(2,591)
収益純額	13,057	9,034
無形資産償却費を除いた営業費用	(8,151)	(6,406)
無形資産償却費	(144)	(186)
営業費用	(8,295)	(6,592)
関連会社及び合併事業の税引後損益に対する持分	18	22
税引前利益	4,780	2,464
税引前利益(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	4,389	4,284
貸借対照表関連の情報		
銀行及び顧客に対する貸付金(償却原価ベース)	£149.7bn	£162.6bn
資産合計	£1,094.8bn	£1,019.1bn
調整後グロス・レバレッジに寄与する資産 ¹	£668.1bn	£618.2bn
リスク調整後資産	£191.3bn	£181.1bn
流動性プール	£154bn	£127bn
パフォーマンス指標		
平均株主資本利益率	16%	9%
平均有形株主資本利益率	17%	9%
平均リスク調整後資産利益率	1.6%	0.8%
貸倒比率(bp)	42	115
収益に対する費用の比率	61%	57%
収益純額に対する費用の比率	64%	73%
収益純額に対する費用の比率(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	65%	61%
収益に対する人件費の比率(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	43%	33%
その他の財務指標		
平均 DVaR(95%)	£53m	£77m
従業員 1 人当たり平均収益(千ポンド)	£548	£515

¹ 2010年12月31日に修正後の定義を使用。これを2009年12月31日に適用すると5,974億ポンドとなる

事業部門別の事業業績

パークレイズ・キャピタル

パークレイズ・キャピタルの税引前利益は、47億8,000万ポンドに増加しました(2009年:24億6,400万ポンド)。当グループ自身の信用度に関連する損益を除いた税引前利益は2%増の43億8,900万ポンド(2009年:42億8,400万ポンド)となりました。トップライン収益は133億3,300万ポンド(2009年:178億6,200万ポンド)となり、極めて堅調だった前年の業績から25%減少し、一段と厳しい市場環境を反映しています。2010年度第4四半期のトップライン収益は、前四半期比20%増の33億8,000万ポンドとなりました。これは活動水準の上昇のほか、株式及びプライム・サービス事業の74%増とインベストメント・バンキング業務の45%増の寄与によるものです。第4四半期の債券、為替、及びコモディティのトップライン収益は、非経常利益によって押し上げられて前四半期とほぼ同水準となり、金利、為替及びコモディティの寄与が拡大しました。当グループ自身の信用度に関連する3億9,100万ポンドの利益(2009年:18億2,000万ポンドの損失)を除いた2010年度の収益純額は、17%増の126億6,600万ポンド(2009年:108億5,400万ポンド)となりました。損益を通じて計上された信用市場に関連する損失は1億2,400万ポンド(2009年:44億1,700万ポンド)へ、減損費用は5億4,300万ポンド(2009年:25億9,100万ポンド)へといずれも大幅に減少しました。

収益合計の内訳

	2010年 12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)	2009年 12月31日 に終了した年度 (百万ポンド)
債券、為替、及びコモディティ(FICC)	8,811	13,652
株式及びプライム・サービス	2,040	2,165
インベストメント・バンキング	2,243	2,188
プリンシパル・インベストメント	239	(143)
トップライン収益	13,333	17,862
信用市場に関連する損失	(124)	(4,417)
収益合計(当グループ自身の信用度に関連する損益を除く)	13,209	13,445
当グループ自身の信用度に関連する損益	391	(1,820)
収益合計	13,600	11,625

収益は17%増の136億ポンド(2009年:116億2,500万ポンド)となりました。第2四半期以降の厳しいトレーディング状況がトップライン収益へ与えた影響は、信用市場に関連する損失の大幅な減少と2010年の当グループ自身の信用度に関連する利益の影響によって十二分に相殺されました。

債券、通貨及びコモディティ(FICC)のトップライン収益は、特に金利とコモディティによる寄与の低下を反映して35%減の88億1,100万ポンド(2009年:136億5,200万ポンド)となりました。資金調達費用の増大も利息収入純額の減少につながりました。

株式及びプライム・サービスは6%減の20億4,000万ポンド(2009年:21億6,500万ポンド)となりました。欧州の株式デリバティブにおける市場活動の低迷は、現物株式業務拡大の効果が表れ始めたのに伴い、現物株式とエクイティ・ファイナンスの顧客フローの改善で一部相殺されました。

アドバイザー業務と株式・債券引受業務で構成されるインベストメント・バンキング事業は、銀行活動が引き続き拡大したことを受け、3%増の22億4,300万ポンド(2009年:21億8,800万ポンド)となりました。受取手数料はインベストメント・バンキング業務と株式全体で12%増の33億4,700万ポンド(2009年:30億100万ポンド)となり、アジアの寄与が拡大しました。

売却可能資産の売却と公正価格で保有する資産の公正価格の下落幅縮小による収益の増加に加え、プリンシパル投資の収益は2億3,900万ポンド(2009年:1億4,300万ポンドの損失)となり、投資収益純額の7億5,200万ポンド(2009年:1億6,400万ポンドの損失)に寄与しました。

減損費用の5億4,300万ポンド(2009年:25億9,100万ポンド)は、主に貸付金元本と予想実現期間の再評価に従うプロティアムへの貸付金を保証する原資産の公正価格の差額に関連する信用市場に関連する減損の6億2,100万ポンド(2009年:16億6,900万ポンド)を含みます。信用市場以外に関連する減損は7,800万ポンドの戻し入れでした(2009年:9億2,200万ポンドの費用)。

営業費用は26%増の82億9,500万ポンド(2009年:65億9,200万ポンド)となり、当グループのセールス、オリジネーション、トレーディング、リサーチ業務への投資、前年度の報酬繰延に関連する費用の増加、事業再編費用が主因です。当グループ自身の信用度に関連する損益の影響を除くと、収益純額に対する費用の比率は65%(2009年:61%)、収益に対する人件費の比率は43%(2009年:33%)でした。

資産合計は7%増の1兆950億ポンド(2009年:1兆190億ポンド)となりました。この増加は当グループの資産を計上している他通貨に対してポンドが正味で下落したこと、リバース・レポ取引の伸び、流動性プールが1,540億ポンド(2009年:1,270億ポンド)に増加したことを反映しています。調整後グロス・レバレッジ資産は8%増の6,680億ポンドとなりました(2009年:6,180億ポンド)。リスク調整後資産は、手法の変更と為替レート変動による影響が資本管理効率に伴う減額によって一部打ち消され、6%増の1,910億ポンドとなりました(2009年:1,810億ポンド)。

税引前利益の大幅な増加を反映して平均株主資本利益率は16%(2009年:9%)に上昇し、平均有形株主資本利益率は17%(2009年:9%)に上昇、平均リスク調整後資産利益率は1.6%(2009年:0.8%)に上昇しました。

平均DVaRは、顧客活動の低下が響いて5,300万ポンドに減少しました(2009年:7,700万ポンド)。2010年12月31日現在のスポットDVaRは4,800万ポンドに減少しました(2009年:5,500万ポンド)。

リスク管理

一部の国に対する当グループのエクスポージャー

下表は、一部の国(スペイン、イタリア、ポルトガル及びアイルランド)に対する当グループのエクスポージャーを示すものです。これらは、スタンダード・アンド・プアーズによる信用格付けが「AA」以下であり、かつ当グループのエクスポージャーが5億ポンド以上であるユーロ圏諸国です。

ギリシャ(ソブリン信用格付けは「BB+」)に対する当グループのエクスポージャーは、5億ポンド未満です。当グループのエジプトに対するバランスシート上のエクスポージャーは、約20億ポンドであり、そのうち大部分は、満期1年未満の国債の形で保有する売却可能資産です。また、偶発債務及びコミットメントには、パークレイズ・アフリカのエジプトにおける貿易金融業務に関するものが10億ポンド未満含まれています。

下表に含まれる残高は、各国のリテール顧客向け及びホールセール顧客(コーポレート及びソブリン)に対する当グループのエクスポージャーを表しています。

資産は、トレーディング負債のポジションを控除しておらず、リスク軽減前で記載されています。ただし、減損引当金並びにデリバティブ取引のカウンターパーティ・ネットティング及び保有担保を控除した後の金額で記載されています。

A. リテール

	2010年12月31日現在		2010年6月30日現在	
	貸付金 (償却原価により評価) 百万ポンド	偶発債務及び コミットメント 百万ポンド	貸付金 (償却原価により評価) 百万ポンド	偶発債務及び コミットメント 百万ポンド
	スペイン	19,053	1,306	18,124
イタリア	16,324	1,004	14,239	945
ポルトガル	5,813	1,384	4,978	1,162
アイルランド	77	9	142	19

リテール顧客に対するエクスポージャーは、主にスペイン、イタリア、ポルトガルにおける住宅ローンを中心とする国内貸出に関連しています。スペインとイタリアにおける住宅ローンの信用力は、担保掛目(LTV)の低い貸出が行われていることを反映したものとなっており、2010年12月31日現在の時価評価によるLTVの平均は、スペインが58%、イタリアが45%でした。信用リスクの高いローンの残高は、スペインでは22%増の8億3,200万ポンド、イタリアでは15%増の5億5,300万ポンドとなりました。

B. ホールセール

2010年12月31日現在	貸付金(償却原価により評価)		公正価値で保有する資産		偶発債務及び コミットメント 百万ポンド
	合計 百万ポンド	うち政府向け 百万ポンド	合計 百万ポンド	うち政府向け 百万ポンド	
スペイン	6,574	86	8,625	6,665	2,550
イタリア	3,180	-	9,258	7,382	2,622
ポルトガル	2,706	7	2,495	1,207	1,739
アイルランド	3,069	-	3,320	452	1,422
2010年6月30日現在					
スペイン	7,167	133	8,731	6,403	3,182
イタリア	3,159	-	10,466	8,606	1,546
ポルトガル	2,405	19	2,408	1,177	1,543
アイルランド	3,324	-	3,160	328	1,482

パークレイズ・キャピタル及びパークレイズ・コーポレートのスペイン、イタリア、ポルトガル、アイルランドにおける業務に関連するホールセール顧客に対するエクスポージャーは、中小企業向け業務、コーポレート・バンキング業務及びインベストメント・バンキング業務、並びに西ヨーロッパ部門の財務運用における上記諸国の国債及び社債の保有という幅広い範囲にわたっています。貸付金には、2010年12月31日現在で、不動産及び建設業に対するエクスポージャーがスペインで29億5,100万ポンド、ポルトガルで9億3,700万ポンド、アイルランドで1億9,500万ポンド、イタリアで7,100万ポンド含まれています。

公正価値で保有する資産は、主にトレーディング・ポートフォリオ資産(流動性が極めて高い)、投資適格債券の売却可能資産ポジション、及びデリバティブから構成されています。

資本及び業績管理

資本要素

	2010年12月31日現在 百万ポンド	2009年12月31日現在 百万ポンド
普通株式	50,858	47,277
剰余金に対する法定調整		
- 売却可能金融商品再評価差額金 - 債券	340	83
- 売却可能金融商品再評価差額金 - 株式	-	(309)
- キャッシュフローヘッジ剰余金	(152)	(252)
- 確定給付型年金資産	99	431
- 規制上の連結範囲に係る調整	99	196
- RCI 及び上級 Tier2 他人資本に係る為替換算差額	209	25
- 当グループ自身の信用度に係る調整	(621)	(340)
- その他の調整	(40)	144
非支配持分	2,923	2,351
(控除) 無形資産	(8,326)	(8,345)
(控除) 予想減損損失の純超過分の 50%	(168)	(25)
(控除) 証券化におけるポジションの 50%	(2,360)	(2,799)
コア Tier1 資本	42,861	38,437
優先株式	6,317	6,256
資本留保性証券	6,098	6,724
Tier1 社債 ¹	1,046	1,017
予想減損損失の純超過分に係る税金	(100)	8
(控除) 金融機関における重要な持分の 50%	(2,676)	(2,805)
適格 Tier1 資本総額	53,546	49,637
再評価積立金	29	26
売却可能金融商品再評価差額金 - 株式	-	309
包括的に評価される減損に対する引当金	2,409	2,443
Tier2 非支配持分	572	547
適格劣後債務:		
- 永久他人資本	1,648	1,350
- 期限付他人資本	16,565	15,657
(控除) 予想減損損失の純超過分の 50%	(168)	(25)
(控除) 証券化におけるポジションの 50%	(2,360)	(2,799)
(控除) 金融機関における重要な持分の 50%	(2,676)	(2,805)
適格 Tier2 資本総額	16,019	14,703
(控除) その他の規制による減額	(2,250)	(880)
純資本要素総額	67,315	63,460
リスク調整後資産	398,031	382,653
資本比率		
コア Tier1 比率	10.8%	10.0%
Tier1 比率	13.5%	13.0%
リスク資産比率	16.9%	16.6%

¹ Tier1 社債は、連結貸借対照表においては劣後債務に含まれます

資本及び業績管理

コア Tier1 資本は、2010 年に 44 億ポンド増加しました。増加要因の内訳は、利益による増加が 36 億ポンド、ワラントの行使による新株発行で 15 億ポンド、為替換算調整勘定の増加で 7 億ポンドでした。一方で、売却可能金融株式の純損失(ブラックロックで 9 億ポンド)と 5 億ポンドの配当の支払いが、減少要因でした。

Tier1 資本は、2010 年に 39 億ポンド増加しました。コア Tier1 資本の増加が、資本留保性証券の償還 7 億ポンドで相殺されました。

純資本総額は、2010 年に 39 億ポンド増加しました。Tier1 資本の増加と、9 億ポンドの劣後債務の発行純額を主因とする Tier2 資本の増加が寄与しました。一方で、連結対象外の子会社と関連会社に対する持分の規制上の控除額が 14 億ポンド増加して、純資本総額を減少させる要因となりました。

2010 年 12 月 31 日時点のバーゼル II に基づく当グループのコア Tier1 資本比率は 10.8%(2009 年:10.0%)で、Tier1 資本比率は 13.5%(2009 年:13.0%)でした。

事業部門別資産合計及びリスク調整後資産

	事業部門別資産合計		事業部門別リスク調整後資産	
	2010 年 12 月 31 日現在 百万ポンド	2009 年 12 月 31 日現在 百万ポンド	2010 年 12 月 31 日現在 百万ポンド	2009 年 12 月 31 日現在 百万ポンド
英リテール・バンキング	121,590	109,327	35,274	35,876
パークレイカード	30,324	30,274	31,913	30,566
西ヨーロッパ・リテール・バンキング	53,609	51,027	17,269	16,811
パークレイズ・アフリカ	7,891	7,893	8,003	7,649
アブサ	52,373	45,765	30,398	21,410
パークレイズ・キャピタル	1,094,799	1,019,120	191,275	181,117
パークレイズ・コーポレート	85,735	88,798	70,796	76,928
パークレイズ・ウェルス	17,849	14,889	12,398	11,353
インベストメント・マネジメント	4,612	5,406	74	73
本社機能及びその他の事業	20,863	6,430	631	870
合計	1,489,645	1,378,929	398,031	382,653

リスク別リスク調整後資産

	2010 年 12 月 31 日現在 百万ポンド	2009 年 12 月 31 日現在 百万ポンド
クレジット・リスク	260,998	252,054
カウンターパーティー・リスク		
- 内部モデル法	29,466	24,453
- 非モデル法	14,397	20,997
市場リスク		
- モデル VaR	9,209	10,623
- モデル IDRC 及び非 VaR ¹	3,769	5,378
- 標準	48,073	38,525
業務リスク	32,119	30,623
リスク調整後資産合計	398,031	382,653

リスク調整後資産は、2010 年に 4%増加して、3,980 億ポンドとなりました。基調的なリスク調整後資産は前年比で 220 億ポンド減少しました。これは主にパークレイズ・キャピタルでの減少で、効率的な資本管理、及びリスクと在庫の水準の低下によるものです。一方で、リスク調整後資産の計算方法とモデルの変更によって、リスク調整後資産は約 280 億ポンド増加しました。その他、為替レート及びその他の変動によっても、リスク調整後資産が 90 億ポンド増加しました。

¹ IDRC - 追加的デフォルト・リスクにかかる自己資本賦課

資本及び業績管理

調整後グロス・レバレッジ

	2010年 12月31日現在 百万ポンド	2009年 12月31日現在 百万ポンド
資産合計	1,489,645	1,378,929
カウンターパーティー・ネットティング／担保デリバティブ ¹	(377,756)	(374,099)
公正価値で測定すると指定された金融資産及び関連する現金残高 — 投資契約に基づく顧客に対する ユニットリンク型負債に対応した保有	(1,947)	(1,679)
決済差額及び現金担保—純額 ²	(48,108)	(25,825)
のれん及び無形資産	(8,697)	(8,795)
調整後有形資産合計	1,053,137	968,531
適格 Tier1 資本総額	53,546	49,637
調整後グロス・レバレッジ²	20	20
株主資本に対する資産合計の比率	24	24

パークレイズは、バランスシート管理の一環として、その限界と目標の中で引き続き業務を行っています。

2010年12月31日現在の調整後グロス・レバレッジは20倍でした(2009年:20倍)。Tier1資本は535億ポンドへ39億ポンド増加しましたが、調整後有形資産の846億ポンドの増加で相殺されました。2010年度の各月末の調整後グロス・レバレッジは、20倍から24倍の間で変動しました。この変動は通常のトレーディング業務の結果で、リバース・レポ取引の増加とトレーディング・ポートフォリオ資産の保有額の変動が主な理由です。

2010年12月31日現在の株主資本に対する資産合計の比率は24倍でした(2009年:24倍)。各月末の同比率は24倍から29倍の範囲で変動し、それは、前述のトレーディング活動の変動に加えて金利デリバティブと決済のグロスのバランスの変化も影響しました。

調整後総有形資産合計は中央銀行に預金している現金976億ポンド(2009年:815億ポンド)を含んでいます。それを除くと、調整後グロス・レバレッジは18倍となります(2009年:18倍)。

バーゼル銀行監督委員会(BCBS)が「バーゼルIII:より強靱な銀行及び銀行システムのための世界的な規制の枠組み」の最終ガイドラインを2010年12月に発表しました。そのガイドラインは、2013年1月1日から全世界の監督機関によって同時に適用される予定のレバレッジ指標の案を含んでいます(Pillar 1への移行は2018年までとされています)。現在の案の当社の解釈に基づく、2010年12月31日時点のバーゼルIIIに基づくレバレッジ比率は、その上限である33倍に収まっていることとなります。

1 85ページに開示した、カウンターパーティー・ネットティング 3,404億6,700万ポンド(2009年:3,426億2,800万ポンド)と保有担保 372億8,900万ポンド(2009年:314億7,100万ポンド)で構成されます

2 当社は2010年12月31日に、デリバティブ債務契約に対する209億9,600万ポンドの現金担保の控除を反映して、グロス・レバレッジの計算方法を変更しました。2009年にも同様の手法を適用すると、同年のグロス・レバレッジは19倍となります

資本及び業績管理

経済的資本の所要額¹

経済的資本は当社のリスク・プロファイルの内部的な指標で、信頼水準 99.98%で試算したストレス・ロスとして表示されます。当グループが保有する株式及び優先株式の合計額は経済的資本の所要額に算入され、当グループがリスク・プロファイルに基づく信用格付けを維持するために適切な水準に設定されます。

	期中平均 2010年12月31日に 終了した年度 百万ポンド	期中平均 2009年12月31日に 終了した年度 百万ポンド
英リテール・バンキング	3,900	4,000
バークレイカード	3,200	3,350
西ヨーロッパ・リテール・バンキング	1,800	1,450
バークレイズ・アフリカ	800	700
アブサ	1,200	1,200
バークレイズ・キャピタル	10,950	10,750
バークレイズ・コーポレート	4,850	4,750
バークレイズ・ウェルス	550	550
インベストメント・マネジメント	3,600	950
本社機能及びその他の事業	150	100
経済的資本所要額(のれんを除く)	31,000	27,800
のれん及び無形資産(過去平均) ²	10,200	11,000
経済的資本所要額合計³	41,200	38,800

経済的資本の供給額¹

経済的資本に算入される資本は優先株式を含む調整後株主資本ですが、その他の非支配持分は含みません。株主資本は以下の調整を行っています:

- ネット退職給付債務 — 株主資本に対する非資金費用としての減額要因
- キャッシュフロー・ヘッジ剰余金 — 損益計算書に計上される場合にヘッジされた項目の損益と相殺される額
- 売却可能金融商品再評価差額金 — 売却可能金融商品の評価損益
- 当グループ自体の信用度にかかる累積利益 — 当グループ自体の信用度の公正価値変動額から発生する累積利益
- 優先株式 — 優先株式は、当グループの長期的な資本ベースを最適化するために発行されているため経済的資本の構成内容に含まれますが、優先株式の配当・償還にかかわる費用は非支配持分の利益に含まれるために、経済的資本の観点から株主資本には含まれません。

	期中平均 2010年12月31日に 終了した年度 百万ポンド	期中平均 2009年12月31日に 終了した年度 百万ポンド
非支配持分を除いた株主資本からののれんを差し引いた額 ²	41,400	28,000
退職給付債務	450	800
キャッシュフロー・ヘッジ剰余金	(700)	(300)
売却可能金融商品再評価差額金	150	600
当グループ自体の信用度にかかる累積利益	(450)	(1,150)
経済的資本を目的とする期中平均株主資本(のれんを除く)	40,850	27,950
過去ののれん及び無形資産(平均) ²	10,200	11,000
経済的資本を目的とする期中平均株主資本(のれんを含む)	51,050	38,950
優先株式	5,850	5,850
経済的資本として算入可能な資金⁴	56,900	44,800

1 通年の調整後平均を用いて計算し、表示のため5,000万ポンド単位で切り上げまたは切り捨てしています。経済的資本所要額は年金リスクのために計算された経済的資本を除きます

2 のれんの平均は買収によるのれんや合併による無形資産に関するものです

3 2010年12月31日現在の経済的資本所要額合計は415億5,000万ポンド(2009年:407億5,000万ポンド)です

4 2010年12月31日現在の経済的資本に算入可能な資本は589億5,000万ポンド(2009年:546億ポンド)です

資本及び業績管理

経済的利益

経済的利益は税引後利益及び少非支配持分からキャピタル・チャージ(非支配持分を除いた期中平均株主資本にパークレイズの資本コストを乗じた額)を差し引いたものです。当グループでは、資本コストとして 12.5%を統一して使用しています¹。

	期中平均 2010年12月31日に 終了した年度 百万ポンド	期中平均 2009年12月31日に 終了した年度 百万ポンド
税引後利益及び少非支配持分	3,564	2,628
買収に伴う無形資産の減価償却費用戻し入れ ²	328	348
経済的利益として計上される利益	3,892	2,976
キャピタル・チャージ(経済的利益のための期中平均株主資本に 12.5%を乗じた額)	(6,380)	(4,866)
経済的損失	(2,488)	(1,890)
英リテール・バンキング	239	(7)
パークレイカード	76	18
西ヨーロッパ・リテール・バンキング	(251)	13
パークレイズ・アフリカ	15	(53)
アブサ	19	(15)
パークレイズ・キャピタル	1,729	195
パークレイズ・コーポレート	(1,262)	(532)
パークレイズ・ウェルス	66	46
インベストメント・マネジメント	(367)	(113)
本社機能及びその他の事業	(493)	(58)
	(229)	(506)
買収により発生した過去ののれん及び買収に伴う無形資産	(1,277)	(1,374)
期中平均株主資本との相違(非支配持分を除く)	(982)	(10)
経済的損失	(2,488)	(1,890)

当グループの経済的損失は 24 億 8,800 万ポンドに拡大しました(2009 年:18 億 9,000 万ポンド)。この拡大は、経済的利益の増加分 9 億 1,600 万ポンドを、期中平均株主資本の著しい増加による経済的のキャピタル・チャージの 15 億 1,400 万ポンドの増加が上回ったためです。

1 2011年1月1日より当グループの資本コストを 12.5%から 11.5%に変更しました

2 買収により発生した無形資産の減価償却費用であり、税金及び非支配持分の調整後です

資本及び業績管理

利ざやと残高

利息収入純額の分析	2010年12月31日	2009年12月31日
	に終了した年度 百万ポンド	に終了した年度 百万ポンド
商品の構造的なヘッジ前の利息収入純額	9,038	8,654
商品の構造的ヘッジによる利息収入純額 ¹	1,403	1,364
当グループの資本に対する利息収入の恩恵のシェア(資本の構造的なヘッジを含む)	932	799
グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及び パークレイズ・ウェルスの合計	11,373	10,817
パークレイズ・キャピタルの利息収入純額 ²	1,121	1,598
その他利息収入純額	29	(497)
継続事業による当グループの利息収入純額³	12,523	11,918

現在の低金利環境を背景に、コマーシャル・バンキングの資産、負債、及びグループの株主資本に関して生じる利ざやが大幅に低下しています。この影響は、純利ざやの変動を最小限に食い止めるために設計された構造的金利ヘッジによって、ある程度低減されています。商品の構造的ヘッジを通じて商品残高(無利子当座口座や管理金利預金など)に対する短期利ざやの変動幅をより安定的な中期金利に変換することにより、14億300万ポンド(2009年:13億6,400万ポンド)の収益を計上しました。期間金利を参照して、目標とする満期プロファイルを実現することにより、短期金利が過去平均を下回る際の利ざや圧縮を防ぐために、ヘッジは月次で構築します。

パークレイズは2010年上半期に負債性商品の構造的ヘッジの満期プロファイルの拡大に着手しました。これにより、通期予想収益への寄与が拡大し、将来の利益変動が低減されました。2010年12月末時点の市場イールドカーブと実施中のヘッジ戦略に基づく、負債の構造ヘッジの関わる固定金利リターンは今後2年間にわたり概ね横ばいで推移すると予想されます。このため、現行の低変動金利が継続する限り、これらのヘッジによる正味の寄与は概ね安定的に推移するとみられます。短期金利の上昇が減速した場合、ヘッジのメリットは低下しますが、商品利ざやの改善によって相殺されることが予想されます。ヘッジによる正味の寄与は各事業部門に利息収入純額に含まれています。

また、当グループの株主資本に対する利益変動を管理するために株式構造ヘッジが導入されており、その影響は利息収入純額を通じてグループの株主資本に対する金利収入利得の相当分として各事業部門に振り分けられています。2010年の株式構造ヘッジの収益は17億8,800万ポンド(2009年:11億6,200万ポンドの収益)となり、これには約5億ポンドの英国債売却にかかる純利益が含まれます。経済の状況と見通しに対する懸念を踏まえ、株式ヘッジのデュレーション長期化の一環として購入していた英国債は、2010年第3四半期と第4四半期に売却しました。2010年第4四半期末にかけてデュレーション長期化を再開し、現在では、ヘッジ・ポジションを大幅に再構築しています。より高い金利での再構築により、将来のヘッジ売却収益の損失は約1億4,000万ポンドに限定され、これを10年間で計上します。このため、売却と再構築は今後2年間の金利リターンに重大な影響を与えることはない予想されます。

上記の利息収入純額の中で、「その他」に記載されている金額は、劣後債費用と非顧客の資産と負債に係る正味資金調達、並びに本社機能及びその他の事業の中で保有されている、グループの利息収入の残余利得に関連するものです。2009年に生じた短期金融市場の混乱による本部の資金調達業務コストの増加は、2010年にはありませんでした。

純利ざや

以下に記載されたグローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及びパークレイズ・ウェルスの純利ざや2.03%(2009年:2.11%)は、顧客の平均資産・負債合計に対する比率に相当します。このように、純利ざやは顧客の負債に関して得た利ざやの影響を組み入れているため、最近の数四半期にはリテール・バンキング及びコマーシャル・バンキングに関わるスプレッドが縮小しています。

グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及びパークレイズ・ウェルスの利息収入純額の合計を平均資産総額で除して算出した総利ざやは3.67%です(2009年:3.68%)。

1 この数値のうち、英国リテール・バンキングは8億7,800万ポンド(2009年:8億3,700万ポンド)、パークレイズ・コーポレートは2億6,500万ポンド(2009年:2億6,600万ポンド)

2 株式の構造ヘッジ利得を含む、グループ株主資本に係る利息収入分を含む

3 GRBの利息収入純額の合計は71億9,100万ポンド(2009年:69億3,100万ポンド)で、GRB純利ざやは2.27%(2009年:2.42%)

資本及び業績管理

純利ざや	2010年12月31日に 終了した年度	2009年12月31日に 終了した年度
	%	%
英リテール・バンキング	1.45	1.45
パークレイカード	9.77	9.69
西ヨーロッパ・リテール・バンキング	1.16	1.66
パークレイズ・アフリカ	5.07	4.60
アブサ	2.56	2.61
パークレイズ・キャピタル	1.53	1.65
パークレイズ・ウェルス	1.22	1.02
グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及び パークレイズ・ウェルス	2.03	2.11

利息収入純額は、1 カ月 LIBOR プラス流動性プレミアム(内部資金調達率)に関して得られる平均資産または支払われる平均負債の金利、海外事業の現地相当額、またはデリバティブを使用して銀行が運用した金利から導出されます。

グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及びパークレイズ・ウェルスに係る以下の資産及び負債のマージンは利ざやの基本的変動要因に関わる追加情報として提供されています。

資産及び負債、マージン及び顧客の平均資産・負債残高	マージン		顧客の平均資産・負債残高	
	2010年 12月31日に 終了した年度 %	2009年 12月31日に 終了した年度 %	2010年 12月31日に 終了した年度 百万ポンド	2009年 12月31日に 終了した年度 百万ポンド
英リテール・バンキング資産	1.21	1.39	113,713	102,043
英リテール・バンキング負債	1.57	1.38	104,508	93,619
パークレイカード資産	9.06	8.97	28,811	28,102
西ヨーロッパ・リテール・バンキング資産	1.02	1.31	41,509	38,999
西ヨーロッパ・リテール・バンキング負債	0.77	0.43	17,263	13,170
パークレイズ・アフリカ資産	6.97	5.75	3,887	4,408
パークレイズ・アフリカ負債	2.63	2.70	6,621	6,409
アブサ資産	2.72	2.68	37,441	32,483
アブサ負債	2.40	2.43	21,110	17,380
パークレイズ・キャピタル資産	1.43	1.65	69,831	75,703
パークレイズ・キャピタル負債	1.19	1.10	60,946	50,511
パークレイズ・ウェルス資産	0.81	1.01	14,529	12,268
パークレイズ・ウェルス負債	1.29	0.96	40,985	37,122
グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及び パークレイズ・ウェルス資産合計	2.20	2.36	309,721	294,006
グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及び パークレイズ・ウェルス負債合計	1.48	1.31	251,433	218,211

当グループは 2009 年 10 月 1 日に、グループ内の資金調達と流動性を価格決定する、内部資金価格決定体制の改定を実施しました。この体制は、正味剰余流動性を持つ事業に対する貸方記入と、一般市場金利によって導出され期間プレミアムを含む、パークレイズの内部資金調達率でのホールセール資金調達を必要とする事業に対する借り方記入を、適切に行う効果があります。目標としているのは、資産と負債に対する内部資金調達の価格決定を、資金調達の代替源のコストに沿って行うことにより、リテールとホールセールの源泉間に整合性を持たせることです。グローバル・リテール・バンキング、アブサ、パークレイズ・コーポレート及びパークレイズ・ウェルスに関して、2010 年の体制変更による純利ざやへの影響は重大なものではなく、パークレイズ・ウェルスでは剰余期間流動性による利得がパークレイカードの期間流動性要件を概ね相殺しました。

内部資金価格決定体制の変更は、関連事業の資産と負債のマージンに影響を与えています。特に、英国リテール・バンキング、西ヨーロッパ・リテール・バンキング、パークレイズ・コーポレート及びパークレイズ・ウェルスの負債マージン(影響を受けるのは主力の預金収集事業)はアプローチの変更がプラスに作用しました。これに対して、これらの事業の資産マージン、及び影響の程度は低いものの、パークレイカードは、体制変更によってマイナスの影響を受けました。

マージンは、純利ざやの変動を最小限に抑えるために実行されるヘッジ活動によっても影響を受けます。このため、ヘッジは負債に対してより恒常的な収益基盤を提供すると共に、固定金利資産に対してより恒常的な資金調達コストを提供します。